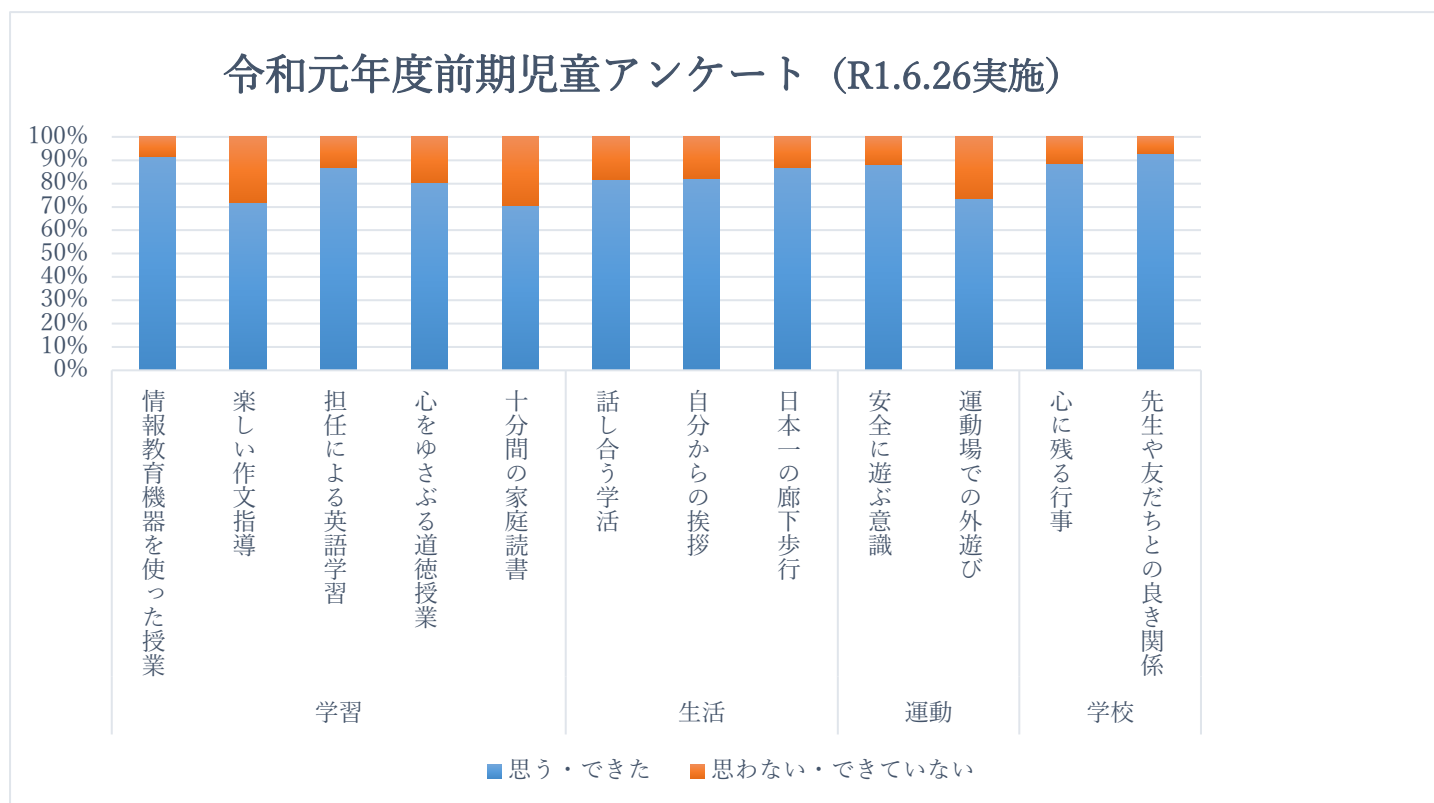


<令和元年度 前期 児童アンケート>



1、学習

(1)情報教育機器を使った授業

本校の本年度の重点課題の一つが「大型ディスプレイや大型テレビ、書画カメラ、インターネット通信、コンピュータ等を活用し、分かりやすい授業を心掛ける。」です。昨年度の途中に、全学年普通教室に大型ディスプレイまたは大型テレビが設置されました。また、学年に1台ずつ書画カメラとパソコンがあり、それらを使ってどの学級も授業を行っています。「ここを見る」「そこに書く」などの教員の指示を、子どもたちは聞きながら視覚で確かめることができますし、教室に持ち込めない実物をインターネットから得た画像で見せることができます。また、算数では分度器や三角定規の使い方を習得させるのに大変役立っています。「情報教育機器を使って先生は分かりやすい授業をしてくれる」と答えた児童は91.6%でした。

(2)楽しい作文指導

昨年度の全国学力・学習状況調査の結果から、本校の児童は文を綴ることが苦手だということが分かりました。見たことや聞いたことをどんな順番でどのような表現で書けば、自分の思いが相手に伝わるのかと考え、構想を練りながら文章を綴るのが難しいようです。そこで、朝の15分間の「はげみ学習」の時間も利用して、「書く」指導を行うことが本年度の課題です。「日記や作文など文章を書くことは楽しいですか」の問いには、72.0%の児童が肯定的な回答をしましたが、「できそう」「やれそう」「書けるかもしれない」と思う気持ちをもっと持てるような作文指導をしなければならないと思いました。

(3)担任による英語学習

3・4年生は週1時間、5・6年生は週2時間、英語・外国語の学習をします。ALT やわくわくイングリッシュサポーターも授業に入りますが、ALT のジョイ先生は年間66日間、わくわくイングリッシュサポーターの安

井先生は年間 24 日間しか来ていただけません。そのため、英語(外国語)の指導を担当主導でできるように、昨年度からの課題でした。本年度はお二人の先生と授業の打合せをする時間をどの学年もと、学級担任が自信を持って次の授業に臨めるよう、アドバイスしていただいています。教員にも英語学習への意欲が表れてきており、「担任の先生と楽しく英語の勉強をしていますか」の質問に、86.9%の児童は「はい」と答えました。

(4)心をゆさぶる道徳授業

本校の本年度の研修テーマは「豊かな心を育む道徳教育～道徳的実践力を育てる授業づくり」です。昨年度末に本校の児童の様子について教職員で意見を交わしますと、「良いことと悪いことの判断はできるのだけれども、それが実際の言動に結びついていない場面によく出会う」と言う教職員が多く、道徳の授業を通して、子どもの姿を変えていこうということになりました。児童が自分自身の今までの行動や発した言葉に「あれっ？おかしい。いけなかったんじゃないのかなあ？」と気づき、「今度はこうしよう、次に同じようなことがあれば、こうしなければならぬ」と心に誓うことができる道徳授業を目指しています。「心にグツときたり、ハツと気づかされたり、そんな道徳の授業ができましたか」の問いに、80.5%の児童が「そう思う、どちらかと言えばそう思う」と答えています。

(5)10 分間の家庭読書

学校では毎朝 10 分間の読書を行っていますが、家庭ではどうでしょうか。昨年度の学校評価委員会では、家庭での読書活動の充実に取り組んでほしいという意見がありました。学校では学校ボランティアの方にもお手伝いいただき、本の読み聞かせや図書室の本の貸出に力を入れています。家庭でも本が身近にあり、手に取って読む習慣をつけてほしいと、本年度は家庭での 10 分間の読書を目指しています。本から会話が生まれ、家庭での会話の中から物の見方や考え方を身に付けてほしいと願っています。「家で 10 分ほど本を読む時間を作りましたか」の質問には、70.5%の児童が「できた、おおむねできた」と答えており、担任の声掛けや家庭読書に向かう仕組みづくりがもう少し必要なのかと思いました。学校図書館司書や図書館教育担当教員の発案で、夏休み前の個人懇談期間中、保護者に図書室を開放し、子どもに夏休み中に読ませたい本を貸し出す取り組みを今年行おうと思います。

2、生活

(1)話し合う学活

児童会活動がうまく機能していないのではないか、というのが昨年度の教職員の反省でした。困ったことがあれば学級会で話し合い、各学級の意見を児童会で話し合っよい学校を創るとい、児童会活動本来の目的や役割を成していないと思われる事案もあり、学校行事のための児童会、学校運営の下請けではない児童会を目指し、まずは学級会の話し合い活動を充実させることを本年度の重点課題に据えています。「いい学校、いい学級になるように話し合いをしましたか」の問いに、81.9%の児童が肯定的な回答をしています。

(2)自分からの挨拶

通学路で見守りをしていただいている方から「このごろ、子どもたちがあいさつしなくなったね」と言われました。子どもたちの様子を毎日見ていただいている方からの情報でしたので、さっそく学友区会で先生から子どもたちにお話してもらいました。人が生きていくためには他人とのやり取りは必須です。中でも挨拶が一番簡単なコミュニケーション手段で、相手を考える心、相手に配慮する心、相手に恥じる心を育てます。「学校の先生、家族や近所の人への挨拶は自分からできた」という児童は、82.2%と高率で、先程の見守りの方から

のお話とは少し違う結果になっています。子どもたちは家族の方に温かい挨拶を毎日しているのでしょうか。

(3)日本一の廊下歩行

4月、廊下歩行で日本一を目指すことを生徒指導部の先生が集会で話しました。廊下歩行を通して、学校でのルールを守る生活を徹底するためです。86.9%の児童が「廊下は歩いた。廊下は右側を通った。」と答えています。休み時間に廊下を走って鬼ごっこをしている姿はよく見かけます。「(2)自分からの挨拶」と同じですが、果たして子どもたちは自分に厳しく評価したのでしょうか。「分かっているけど、廊下を走ることが癖になっている。」は、ある学級で話し合ったときに出た言葉です。廊下を走るのはいけないと分かっているけどやめられない、子ども同士でお互いに注意し合い、学校のルールを守る姿勢を身につけさせたいと思っています。

3、運動

(1)安全に遊ぶ意識

昨年冬の休み時間の子どもの様子をみてみますと、たくさんの子子どもたちが小運動場で入り乱れながら鬼ごっこや縄跳びをしていました。鬼ごっこで人ごみの中で止まれず、ぶつかってけがをした子、縄跳びの縄の合間を縫って鬼ごっこをしていてけがをした子が多く見られました。せっかく広い運動場があるのに、狭い小運動場に児童が集中し、けがが起こりやすい状況となっています。そこで、本年度は広い下の運動場を積極的に活用するように、子どもたちに働きかけています。「小運動場で、けがをしそうな危ない遊び方をしていませんか」という問いに、88.1%の児童が「できた、どちらかと言えばできた」と答えました。

(2)運動場での外遊び

気候も安定している1学期は、冬場に比べて外遊びをする子が多くなりました。クラス替えで新しい友達ができ、外で遊ぶことが仲間とのつながりを高めることにもなっています。夏が近づき、外で遊んだあとは汗をかきますが、今年は生駒市の全小中学校の普通教室にエアコンが設置されました。休み時間や体育で体を動かした後は熱中症を予防するために、各教室でエアコンを稼働させ、教室内の温度を28℃に保ちます。涼しい環境が整備されましたので、思い切り遊んでも大丈夫でしょう。「朝や20分休み、昼休みは運動場に出て元気に遊んでいますか」の質問に、73.7%の児童は「できた、どちらかと言えばできた」と答えました。

4、学校

(1)心に残る行事

「心に残る学習や行事があり、楽しい学校生活を送ることができましたか」の問いに、88.8%の児童が「できた、どちらかと言えばできた」と答えました。学校生活の充実のため、学校全体で、また学年でも様々な行事を企画しています。また、学校ボランティアをお願いして、講師として授業に加わっていただいています。1年生の鍵盤ハーモニカ指導、2・3年生の校区巡り、4年生ではパッカー車を持ってきていただき、生駒市のごみ処理について学習しました。6年生は生産量日本一の茶釜にちなんだ茶道体験を行っています。

(2)先生や友だちとの良き関係

学校に行きたくなるのは、そこに一緒に学ぶ友達がいるからです。少々嫌なことがあっても、友だちと一緒にいると気が紛れて忘れられます。私たち大人はこのような経験を数多くしてきました。それゆえ、学校では友だちと、それから見守ってくれる先生と良い関係で過ごしてほしいと願うのです。「先生や友だちと楽しく過ごすことができましたか」の質問に、92.7%の児童が「できた、おおむねできた」と回答し、安心しました。